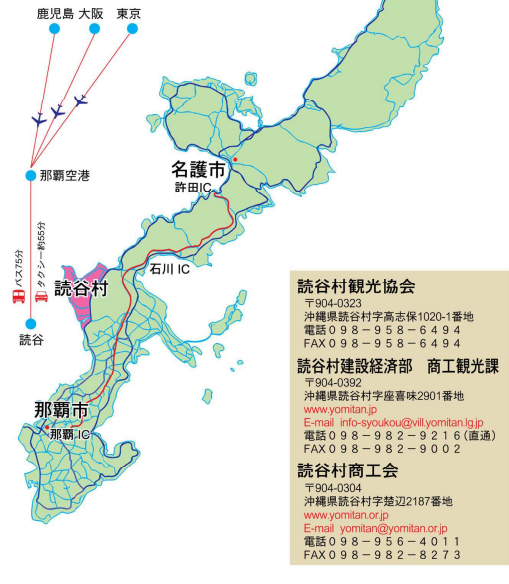


交通 **那覇空港** **読谷**

那覇バスターミナルから28・29番で75分
 那覇空港～那覇バスターミナル間はタクシーバスとも約10分
 バス 28番＝約5分～15分間隔運行
 29番＝1日6往復運行

タクシー約55分
 モノレールを利用 那覇空港駅から旭橋駅まで11分
 乗り換えてバスで那覇バスターミナルの28番もしくは29番に乗り、読谷村内リゾートホテルまで約1時間所要



歴史・名所

木綿原遺跡(もめんばるいせき)
 沖縄に埋葬があったという最初の琉球遺跡で、沖縄県貝塚時代の7基の「箱式石棺墓」と17体の化石人骨が出土した。各々の石棺には複数の遺物が納められ、4基の石棺から13体の被葬者が確認された。
 棺内には遺物、銅製鐙による埋葬法がとられ、骨の上には彫られたシマウマがイロイロあり、当時の人々の死者に対する精神生活が垣間見ることができ。

尚巴志王三代の墓
 琉球王尚巴志とその子尚忠(しょうちゅう)、またその子尚思達(しょうしゅうたつ)の3人の王名が刻まれている。金丸(第二尚氏の始祖)によって第一尚氏が滅び、その一族が遺骨を運び出し、ここに建てたとされている。

座喜味城跡
 平成12年12月2日に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として登録された。
 15世紀はじめに読谷山披司・瀧在丸により築城され、切石積みで造られている連郭式の城。アーチ型の石門としては、最古とも言われている。城壁が遺り出す曲線は均整がとれ、読谷村で最も小高い丘に立地する形状は、最大で自由奔放にして美しく、当時の最高な石造技術が凝縮されたことが伺われ、歴史との対話が可能な空間でもある。
 第二次大戦の時には、日本軍の高射砲基地が置かれ、戦後は一時アメリカ軍のレーダー基地であった。
 一番高い城郭に上り、あたりを見知ると美しい色をした南の空と伊江島の島影を望め、素晴らしい風景が広がっている。

著名番所観光案内所
 各県自治体の性格を醸成、郡県から国郡への府庁としての交通の要所になり、戦前まで読谷における行政・文化の中心として築きあげた。1853年6月3日には、ペリ提督配下の探検隊もここで休憩し、地元民から鶏・卵・キュウリなどのサービスを受けたといわれている。
 電話(098)958-2944

電信屋の碑
 「沖縄海底電信局跡」を記念する石碑で、昭和63年6月に皇太后陛下御慶賀の御機嫌で建立された。
 明治29年鹿児島、神樂間に海底電信線が敷設され、ここ読谷の浜に陸揚げされた。那覇とは架空電線でつなげられ、沖縄における電信線のはじまりになった。

読谷村観光協会
 〒904-0323
 沖縄県読谷村字高志保1020-1番地
 電話098-958-6494
 FAX098-958-6494

読谷村建設経済部 商工観光課
 〒904-0392
 沖縄県読谷村字座喜味2901番地
 www.yomitan.jp
 E-mail info-syoukou@vil.yomitan.lg.jp
 電話098-982-9216(直通)
 FAX098-982-9002

読谷村商工会
 〒904-0304
 ノウケンサズラ科
 熱帯アメリカ原産
 www.yomitan.or.jp
 E-mail yomitan@yomitan.or.jp
 電話098-956-4011
 FAX098-982-8273



世界遺産群の座喜味城跡

| | | |
|--|---|---|
| <p>花木 イブイ ノウケンサズラ科 熱帯アメリカ原産 濃い桃色の花もあり、花期間は1週間ほど短い。</p> | <p>村木 フクギ オトギリソウ科 フィリピン原産 海岸・屋敷の防風林とし代表色のある沖縄の緑化樹。実生・取り木で増やす。黄色の実を揚げ、樹皮は黄色の染料として読谷山花織にも利用される。</p> | <p>村花 ブーゲンビレア オンロイバサ科 フラジル原産 それこそ多くの花色と品種があり、読谷では赤と紫が代表的色。半つ性でトゲがある。成熟した枝を挿し木してふやす。</p> |
|--|---|---|

農水産物・特産品

砂糖キビの刈り入れ **ふかし紅イモ**

野国総管(北谷間切野国村出身～現在の嘉手納町野国)は、イモ(甘藷)を中国より持ち帰る。儀間常の尽力もあり、琉球に広く伝播普及させたことで、離島から免れた名人として高い。そのことを称えるために読谷には喜名・長浜・親志・古坂などに石碑が建てられている。

読谷は紅イモの産地である。沖縄県の農林水産物特産品目録産地にも認定されている。紅イモは甘藷の品種をさしているのではなく、皮が赤く中身が紫の甘藷は「宮農36号」、皮が白く中身が紫は「備瀬」をさす。他に「沖夢紫」などがありこれらを総称して紅イモとよんでいる。「毎月16日はイモの日」と定め、読谷紅イモの販路を固めている。また、戦前、戦中、戦後の食糧難の時代に沖縄における常食作物として重要であった甘藷の品種「佐久川イモ」を育種した本村出身の佐久川清助氏の功績を称えた「佐久川イモ発祥の地」碑がある。さらに、紅イモの消費拡大、販売促進を目指すために、平成18年に「読谷紅イモ認証プログラム」を確立しました。

読谷漁協の特産品

泡盛残波 **チップス・ようかん・サターアンダギー・タルトなどの紅芋菓子**

読谷山花織 **郷土料理レトルトパック**

読谷村には、沖縄を代表する特産品が多い。地産地消を推進する紅芋菓子、とうがんパイ、野菜スライス等、地域の特産物をパックしたレトルト食品・銘酒の泡盛残波・黒糖・かまぼこ・陶器・琉球ガラス・読谷山花織などお土産に最適。

文化・まつりイベント

読谷まつりと創作「進貢船」

毎年11月の第1週土曜・日曜に読谷まつりが開かれる。1372年読谷山(ゆんたんだん)の春期若者達の乗った進貢船が出帆。これが琉球王国と大國・中国の新しい文化や文物を満載し、琉球の発展を再興する目的で出帆。読谷まつりでは、読谷の大衆が一体となり、この大國・中国の文化や文物を満載し、琉球の発展を再興する目的で出帆。読谷まつりでは、読谷の大衆が一体となり、この大國・中国の文化や文物を満載し、琉球の発展を再興する目的で出帆。

読谷まつりと古典芸能

青年エイサーまつり
 読谷村内各青年会が一同に会するイベント
 沖縄の夏を彩る代表的なエイサーは、伝統的な盆行事として取り組まれている。各々が特色ある衣装を身にまとい、勇壮に踊る。

むらびつむら闘牛大会 **ハーリー大会**

むらびつむらにある闘牛場で読谷まつりと連動させ、闘牛大会が開かれる。1トン前後の猛牛が角を突き合わせる様は、ダイナミックで迫力が雷々。

むらびつむらにある闘牛場で読谷まつりと連動させ、闘牛大会が開かれる。1トン前後の猛牛が角を突き合わせる様は、ダイナミックで迫力が雷々。

自然・風物

比謝川
 比謝橋は読谷村と嘉手納町との境に架けられた橋で、比謝川周辺が風光明媚であったことや石橋になってから交易が活発になった。
 比謝橋碑文にはそうした経緯が記されている。

読谷村観光協会

読谷村観光協会

読谷村観光協会

観光・エコツーリズム・体験・平和学習

読谷村観光協会

読谷村観光協会

読谷村観光協会

宿泊 飲食店 社交業店

ホテル日航読谷 **沖城波読谷ロイヤルホテル**

日一読谷ホテル **モリマリーゾートホテル** **ホテル読谷倶楽部**

読谷を代表する大型のリゾートホテルや個性的な宿泊施設がある。非日常の空間でホテルシーンを満喫しよう。ビーチに隣接したホテルではマリンスポーツも楽しめます。

居酒屋 味平 **居酒屋 あしつぼ** **花嫁老成**

読谷食堂ゆいまる **mintama**

読谷を代表する大型のリゾートホテルや個性的な宿泊施設がある。非日常の空間でホテルシーンを満喫しよう。ビーチに隣接したホテルではマリンスポーツも楽しめます。